

油彩

(テンペラ併用)

洋梨を描く①

三浦明範の静物画講座

みづあきのリ 1953秋田 東京学芸大学卒 文化庁主催現代美術展、セントラル美術館
 油絵大賞展、昭和会展、安井賞展、具象絵画ヒエンナーレ、日本の絵画新世代展、両洋の眼現
 代の絵画展、21世紀の旗手展などに出品 文化庁芸術家在外研修員としてベルギーに滞在(96
 ~97) 春陽会会員

■混合技法とは

さて、これから制作を始めますが、その前に技法の説明をしましょう。

この技法は、テンペラと油彩を併用するのですが、先に述べたように、ドイツのマックス・デルナーが、ファン・アイクの技法として提唱したものでした。

実際はこれとは異なったものでしたが、結果的には、新しい技法を發明したことになりました。いわゆる、「温故知新」ですね。

テンペラとは、油絵具が登場する前の絵具のことで、今日では水性の絵具のことを指すことが一般的です。ヨーロッパで最も多く使われていたのは、卵テンペラでした。この混合技法の最も特徴的なことは、「油」の上に「水」、すなわち油絵具の上にテンペラが、はじくことなく乗ることです。

そのためには、「乳化」という処理をすることになりますが、実は



四つの洋梨 F 6 1998年
 パネルに和紙、白亜地、テンペラ・油彩

皆さんには、マヨネーズ作りで周知のことなのです。つまり、サラダ油(油脂分)を卵黄(乳化材)と混ぜると、酢(水分)に混じる現象です。これは、油脂分が水中に微粒子状に分散している、エマルジョンという状態なのです。

このようにすることによって、描く時は水で希釈でき、乾燥すると水分が飛んで油脂分だけになって、油絵具と同じなのです。

このエマルジョン化したテンペラと、油絵具を交互に塗り重ねていく技法が、混合技法ということになります。

■洋梨を描く

何はともあれ、実際に描いてみましょう。最初のモチーフは、まずは洋梨です。

私の生まれ故郷は、東北地方の北部にある小さな盆地の街です。幼少の頃は、ズーゾー弁でしたから、「ナシ」というと茄子、「ナシ」というと洋梨のことでした。多分

日本の梨は、栽培の北限を超えていたせいなのでしょう。洋梨のくびれた形は、異国の情緒と同時に懐かしさも感じています。

今回は、テーブルの上に、白いクロスを敷き、その布の柔らかさと少しごつごつした洋梨の質感の対比と、皺や斑の面白さもテーマにしてみました。

■パネルの制作

まず、木製パネルを準備します。この例では、3ミリ厚のシナベニアに棧を渡したものです。簡単に作るなら、キャンヴァスの木枠の裏に、シナベニヤを木工用ボンドで接着するのもよいでしょう。

この表面に、膠液を塗布します。補強材として今回は石州紙を貼り、乾燥後、地塗り塗料を縦横交互に6回塗ります。

よく乾かして、仕上げにサンド・ペーパーをかけて、パネルの完成です。

■下描き

下描きは墨で描きます。描き直しはできませんから、木炭でしっかり形を取るか、紙にデッサンしたものをトレースするなどしてから、墨入れます。

■絶縁層と有色下地

この地は大変吸収性が高いので、その調節のための絶縁層と、有色下地にするために、油絵具にメディウムを加えたものを全面に塗布します。刷毛塗りするならば、テレピンで2、3倍に希釈して使います。今回は、仕上がりが寒色調子になることを想定して、温かみを加えるためにライト・レッドで行います。

■インスピレーションの準備

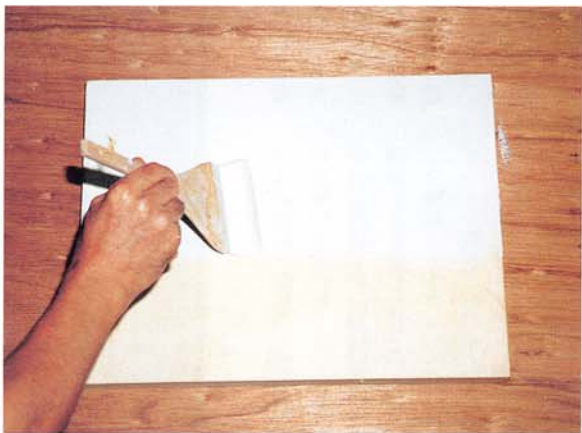
この上から、テンペラ絵具の白(チタニウム・ホワイト)でモデリングしていきます。この続きは、次回にしましょう。



●テンペラ・メディウムの材料●中央、下の層より、卵白、卵黄、ダンマル溶液の順。右は中央を強く攪拌したもの。



●和紙の貼り方●中央から放射状に、空気を抜くように、膠液を刷毛で塗る。



●白亜地を塗る●縦横交互に6層塗り、サンド・ペーパーで仕上げる。

[材料と下地づくり]



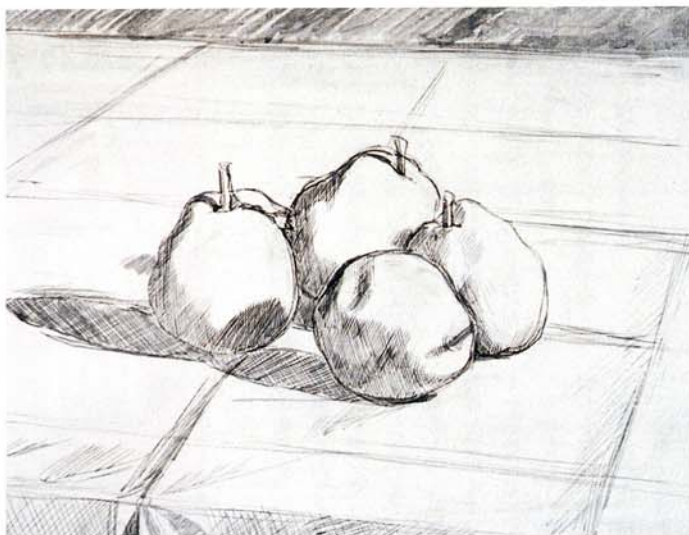
●パネルの材料●上左より、桧木、シナベニヤ。下、和紙。



●下地塗料の材料●上左より、重質炭酸カルシウム、チタニウム・ホワイト。下左より、水、トタン(ウサギ)膠。



●油メディウムの材料●後部左より、スタンド・リンシード・オイル、サンシッド・リンシード・オイル、テレピン精油、ウエネチアン・ターペントイン・ヴァルサム、ダンマル樹脂



①墨によるアンダー・ドロウイング



②ライト・レッドと油メディウムによる、アイソレーション及びインプリミトゥーラ



③テンペラ白による白色浮出し。

[制作過程]

《今回の処方》

1. 膠液

●トタン(兎の皮)膠 70g

●水 1,000cc

※これを一晚膨潤させたものを、湯煎で溶かす。

2. 地塗り塗料

●重質炭酸カルシウム 3容量

●チタニウム・ホワイト 1容量

※上記の膠液に、ひたひたまで振り入れる。

3. ダンマル樹脂溶液

●ダンマル樹脂 100g

●テレピン精油 200cc

※テンペラにはこのまま、油彩には倍に希釈したものを使用。

4. テンペラ・メディウム

●全卵 1容量

●ダンマル樹脂溶液 1容量

※卵のカラザ(白いかたまり)と黄身の薄皮は取り除く。

※これらを瓶に入れて、強く振り混ぜる。

保存はこのまま冷蔵庫で。

※絵具にするには水で倍に希釈したものに、ほぼ等量の顔料を加えて練る。濃淡は水で調節する。

5. 油彩メディウム

●スタンド・リンシード 1容量

●ダンマル樹脂溶液 1容量

●テレピン精油 2容量